

## 令和元年度第1回廃棄物減量等推進審議会会議録

### 1 開催日時

令和元年7月10日(水)

開会 午前 10時30分

閉会 午前 11時30分

### 2 開催場所

尾張旭市役所 南庁舎3階 講堂1

### 3 出席委員

竹澤伸一、加藤孝、佐藤庸子、相羽かよ子、谷口悦予、伊藤紀子、白坂弘子、  
榊田英也、田中道代、鈴木幸恵 10名

### 4 欠席委員

本間 彰、福田憲三 2名

### 5 傍聴者数

3名

### 6 出席した事務局職員

環境課長：木戸雅浩、環境課長補佐：西尾元伸、環境課主査：森康臣

### 7 諮問

「尾張旭市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直しについて」

### 8 議題

「尾張旭市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の中間見直し案について」

## 9 会議の要旨

市民生活部長	<p>定刻になりましたので、ただ今から令和元年度第1回尾張旭市廃棄物減量等推進審議会を開催させていただきます。</p> <p>皆さまには大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>今回、委員をお願いするに当たり、学識経験者、各種団体や事業者からそれぞれ団体の推薦者を、市民公募の委員は2名の方を本審議会の委員として任命させていただきました。皆さまには、快く当審議会の委員をお引き受けいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。</p> <p>本審議会は、7月から新たに皆さまに委員をお願いさせていただきます。初めての会議でございます。今回の委員の方々は、お配りした名簿のとおり12名です。任期は2年間となっておりますのでよろしく申し上げます。</p> <p>本審議会は、ごみの減量化、再生利用の推進方策や諮問事項等について調査審議していただく機関でございます。</p> <p>本市では、平成26年度から10年間を計画期間とする、尾張旭市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画を策定しております。本日の議題とさせていただきますしておりますが、この計画につきまして、本年度に中間見直しを行います。</p> <p>皆さまのお力添えをお願いするとともに本日は、忌憚のないご意見を述べていただきますようお願い申し上げます。</p> <p>それでは、審議会に先立ちまして、会議公開について事務局より説明させていただきます。</p>
環境課長	<p>市では、市民の行政への参画促進と、公正で透明性ある行政運営を図るため、市の附属機関等の会議は、原則公開をすることとしています。</p> <p>会議の公開とは、市民の皆さまに会議の開催をホームページなどでお知らせし、希望される方については会議を傍聴していただくもので、会議録などの資料も公開するものでございます。</p> <p>本審議会につきましても、会議公開制度に基づき、公開させていただきますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、先ほども申し上げましたが、本日が新委員による初めての会議でございます。</p> <p>皆さまから簡単な自己紹介をお願いいたします。</p>
委員	<p>&lt;自己紹介&gt;</p>
	<p>ありがとうございました。</p> <p>本日は、本間委員、福田委員から事前にご連絡をいただいております。</p>

	<p>したがって、本日の出席委員は10名であります。</p> <p>委員の半数以上の方にご出席いただいておりますので、本審議会条例第7条第2項により、本審議会は成立しております。</p> <p>それでは、議題に移らせていただきます。</p> <p>なお、新しい会長が選任されるまでの間、事務局で議事の進行を行いますので、よろしくお願いします。</p> <p>それでは次第2「会長の選出及び職務代理者の指定について」に入ります。</p> <p>この件につきましては、尾張旭市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第1項の規定によりまして、委員の互選により定めることとしております。委員の方から、どなたかご推薦願いたいと思います。</p>
加藤委員	<p>学識経験が豊富であり、環境問題に精力的に取り組んでおられる竹澤委員を推薦したいと思います。</p>
環境課長	<p>ただいま、加藤委員より竹澤委員の推薦をいただきました。他の推薦等がなければ竹澤委員に会長をお願いしたいと思いますが、皆様ご承認いただけますか。</p>
委員	<p>&lt;異議なし&gt;</p>
環境課長	<p>ありがとうございます。それでは、ご異議もないようですので本審議会の会長は、竹澤委員をお願いすることに決定しました。ただいま、会長が選出されましたので、議事進行を会長と交代させていただきます。ご協力ありがとうございました。</p> <p>それでは会長には会長席に移動願いまして、まずはご挨拶からお願いいたします。</p>
会長	<p>改めまして、ただいま会長に推薦いただきました竹澤でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>&lt;ご挨拶&gt;</p> <p>それでは、次第に従いまして進行させていただきます。</p> <p>続いて、職務代理者の指定についてです。この件につきましては、尾張旭市廃棄物減量等推進審議会条例第6条第3項に基づき、私、会長より指名させていただきます。自治会活動の中で地域の課題に精通しておられる自治連合協議会の加藤委員を職務代理者として指定させていただきたいと思いますが、皆さまいかがでしょうか。</p>
委員	<p>&lt;異議なし&gt;</p>
会長	<p>それでは、加藤委員に職務代理者をお願いします。</p> <p>続きまして、次第3「市長の挨拶」に入らせていただきます。</p> <p>森市長よりご挨拶をよろしくお願いいたします。</p>

市長	<p>本日はお忙しい中、第1回尾張旭市廃棄物減量等推進審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、尾張旭市一般廃棄物基本計画は、平成26年3月に策定しました。この基本計画では、計画期間の中間年である概ね5年目の平成30年度に計画の見直しを行うとしていることから、当該年度における現状値や実績を確認の上、検証を行うとともに、重点取り組みとして位置づけられた「燃えるごみの排出量に応じた費用負担」について、平成31年3月までに検討した結果を反映させるため、令和元年度に見直しを実施します。なお、この検討結果については、昨年度、本審議会から「燃えるごみの有料化によらず、引き続きごみの減量に取り組む必要がある」旨の答申をいただき、これを踏まえ、私も「現段階では、ごみの有料化は行わない」と判断いたしました。</p> <p>つきましては、これまでの基本計画の取り組みに状況、社会経済情勢の変動及び国や愛知県における方針などを勘案し、基本計画に反映させることについて、当審議会に、ご審議いただきたく、諮問をいたします。よろしくお願い致しまして、あいさつとさせていただきます。</p>
環境課長	<p>それでは、次第4「諮問」に入ります。</p> <p>これより、市長から審議会会長に諮問書を手渡ししていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
	<市長が会長席の近くに移動>
市長	<p>尾張旭市廃棄物減量等推進審議会条例第2条第2号の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。</p>
	<審議会会長に諮問書を手渡し>⇒<自席へ移動し着席>
環境課長	<p>なお、委員の皆さまには、諮問書の写しが資料1としてお手元に配布してございますので、ご確認いただきたいと思います。</p> <p>それでは、大変申し訳ございませんが、市長及び市民生活部長は他に公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。</p>
市長 市民生活部長	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>&lt;市長、市民生活部長 退席&gt;</p>
環境課長	<p>では、以後の進行は、竹澤会長にお願いしたいと存じます。竹澤会長よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは、早速ですが、次第5「議題 尾張旭市一般廃棄物処理（ごみ）基本計画の中間見直し案について」について、事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<資料2～4-2に基づき説明>
会長	<p>それでは、ただいまの事務局からの説明を踏まえて、審議に移ります。どの切り口からでも結構でございますので、まずは委員の皆さま</p>

	<p>のご意見というよりは、ご質問を承りたいと思います。それぞれのお立場からいかかでしょうか。</p>
田中委員	<p>資料4-2のP34頁にある「事業系ごみの推計」ですが、家庭系ごみについては、様々な取り組みによってきちんと把握されていると思うのですが、事業系ごみについては、説明箇所「実態把握が不十分な状況にあり、できるだけ早急に実態を把握します」とあります。おそらく、ずっとこういった状況で、きたのかなと思うのですが、家庭ごみと事業ごみを合わせて一般廃棄物となるので、事業系ごみについても、きちんと実態把握しながら取り組みを進める必要があると思います。ここでは、具体的な取り組みについてあまり見えてこなかったため質問いたしました。</p>
会長	<p>委員の皆様はご存知かと思いますが、家庭から排出されるごみは一般廃棄物であり、事業所から排出されるごみは産業廃棄物が大きな割合を占めています。家庭系廃棄物の実態については、補足し易いのは確かだと思いますが、事業系廃棄物に関しましては、なかなか実態を掴むのは難しいという部分もございます。ただ、ここに記載があります「実態把握が不十分」ということであると、全体の推計値もいろいろと動いてくる可能性もあるのかなと感じます。</p> <p>事務局において、ただ今の質問内容について、今の段階でお応えできることがございましたらお願いします。</p>
環境課長	<p>事業系ごみにつきましては、平成28年に事業者に対してアンケートを実施しております。事業系ごみをどの様に処分しているのかについては、一般家庭のごみと一緒に排出していたり、しっかり分別していたり等の回答をいただき、集計は行っております。</p> <p>市民の方からも、集積所に事業所のごみが混入しているとの問い合わせもありますし、12月には燃えるごみの組成調査を行っていますが、商業地域では、事業系ごみと疑わしいものが見られるといったことも結果としてあるため、今後はそういった部分から対策を図っていきたくと考えております。</p> <p>また、昨年度も、家庭ごみの集積所に事業系ごみを排出しないよう、事業者へ周知を行っているところでございます。</p>
田中委員	<p>今の説明を聞いて、努力はされていると理解できました。私が思うのは、大きな事業所であれば、事業系ごみの認識はあるかと思いますが、例えば家族経営などの小さな事業所は、家庭系ごみと事業系ごみの区別について、あまり認識を持っていないのではと思います。市として、その線引きや区分をどのように設定しているのか、ということも教えていただきたいです。</p>

環境課長	<p>基本的には、事業活動によって生じるごみであれば、少量であっても事業系ごみとして分類するというような形にはなっております。しかし、仰るように家庭経営のため、区別が困難な事業所もありますので、今後は、そういった事業所への対応についても検討はすべきだと思います。ただ、基本は事業系ごみ区分として考えております。</p>
会長	<p>新たなご質問はございますか。</p>
委員	<p>&lt;質問なし&gt;</p>
会長	<p>他にご質問等がないようですので、それぞれの委員の立場から忌憚のないご意見をいただければ、事務局側もまとめやすいと思いますので、ご意見を賜りたいと思います。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>&lt;意見なし&gt;</p>
会長	<p>多くの方針や数字が示されており、ごみというのはなかなか奥深いものでございます。私の研究テーマもまさに廃棄物でございますが、改めて広がりがあるものだと感じております。</p> <p>せっかく審議会にご参加いただいておりますので、できましたらお一人ずつ感想でも構いませんし、小さなことでも構いませんので、順番に発言をいただければと思います。</p>
伊藤委員	<p>3キリ運動などの新たな取り組みを推進して、ごみ減量を継続させていけたらと思います。</p>
白坂委員	<p>私は、循環型社会推進会議の専門部会である、事業系ごみ適正化プロジェクトのメンバーでもあります。事業系ごみについては、家庭ごみとの区分についてや、小事業所であると、少量ごみのためコストが掛かる等の意見も出ています。</p> <p>家庭系ごみの分別については、ほぼできていると感じますので、メーカー等が自社製品の廃棄物は責任を持って引き取ってもらう、若しくは引き取りが困難ならば処理費用を負担するなど、メーカー側がもう少し力を入れないと、私達ができることには限りがあると感じます。市民だけでなく事業者側とも連携し、全体の問題として取り上げていくべき段階ではないかと思えます。</p>
梶田委員	<p>基本計画について、5年間前に策定した時の状況と現在まで、まったく計画通り数値が推移していることは絶対ないわけで、本当はもっと短いスパンで状況は変わっています。私の感覚においても、古紙は昨年の状況と全く違っており、どんな古紙でもお金になったのが、今年に入ってからは、買い手がいない状況です。</p> <p>そのため、基本計画についても、5年のスパンではなく、もっと短いスパンや状況に応じて、その都度見直していく必要もあると思えます。</p>

田中委員	<p>市民がごみを抑制するのは限界があると思います。スーパーに陳列している物でも、ほとんどがパック詰めであり、そういった物がごみに繋がっていくわけです。ごみを出さない社会作りとして、製造者側が余分なごみになるようなものは発生させないという取り組みが必要だと思います。</p> <p>本市でできることと言えば、まずはレジ袋の有料化が挙げられますが、そういった事業者と市民が協働で取り組めるようなことがあると良いかなと思います。</p>
鈴木委員	<p>テレビ等で海洋プラごみの問題が取り上げられますが、日本から流入したごみが他国へ漂流しており、その逆も然りな状況です。大きな問題として捉えると、世界全体で考えていかなければなりません、基本的なところは、個人個人の意識が原点なんだろうと思います。事業所にしても、事業所として対応するという意識を持っているのかどうかです。私達市民も、まだ充分分かっていないことも多いのではないかという思いもあります。原点を見直すことが、先に進むために必要なことなのではないかと考えます。</p>
谷口委員	<p>この審議会の委員として参加させてもらうまでは、ごみ問題について無関心でした。自宅近くに工場等が多くありますので、委員となってからは、工場等から家庭ごみ集積所にごみが出されていないか確認するようになりました。</p> <p>そういった、小さなことから市民が関心を持つことがとても大事なことではないかと思います。また、ごみの有料化をしたからといって、問題解決するのかと考えてもそうでもない気がします。やはり市民が、関心を持つということが一番大事なことじゃないかなとつくづく感じております。</p>
相羽委員	<p>プラスチックごみは増加傾向にあると感じます。様々な商品の包装に使用されているので、その見直しが必要であると思います。</p>
佐藤委員	<p>市民は分別することしかできないため、販売されている商品の包装や容器を縮小していくことが、ごみの減量に繋がると思います。</p> <p>昔のように、自前の鍋を持って豆腐を買いに行くような時代ではないですが、見栄えばかりに固執しない商品販売が行える社会とするために、私達にできることがあるのかわかりませんが、皆様に教えていただきながら考えていきたいと思います。</p>
加藤委員	<p>家庭のごみを考えると、出す方が意識を変えるということも大事だと思います。例えば、生ごみを細分化でして出すなどが考えられ、豊橋市のように生ごみのみを分別回収するなどの良い事例を取り入れられればと思います。事業側で考えれば、コンビニ等などのごみ箱に</p>

	<p>はごちゃ混ぜにごみが排出されることが多いと感じます。</p> <p>このような出し方についてもっと改善点を見つけてもらえればと思います。私共の旭ヶ丘自治会が主催するエコフェスでは、催しを通じてリサイクルやリユースを市民へアピールしております。大きなことは変えられないにしても、個人が目を向けられる形で示すことで、意識改革は浸透していくと思います。また、民間店舗でのペットボトル回収を活用し、ポイントを付与が受けられる場を推進していくことも、市民に見える形での出し方改善に繋がると思います。</p>
<p>会長</p>	<p>私はごみについて40年以上関わっておりますが、きっかけは千葉県市川市で「市川市環境市民会議」に参加したことです。一市民として教員になった年から関わり、環境基本計画の作成等を一緒にやらせていただきました。</p> <p>今皆様のお話を伺っていると、2つの大きな論点があった気がいたします。一つは、事業者に対して、例えば市民や市役所の立場でどうアプローチしていくかというのは難しいですが、いろんな方法で事業者の意識も高めていかないと解決できない問題もたくさんあるのかなと。もう一つは、我々市民の意識改革です。日常生活において、ごみについて高い意識をもっている方はそんなにおられないと思います。</p> <p>私は、中学の教員をずっとやっていた環境もありまして、子ども達を焚き付け、毎年、いろいろな会社、農家、自治体等を子どもと一緒に探検し、それを23年間続けました。その教え子が1,186人います。その子ども達は大人になり、その後の生活をずっと追いかけています。一緒に探検した子ども達がどのような生活をしているのか定期的にアンケートをとっています。</p> <p>今は大学生を教えています。環境・ごみ意識は極めて低いです。名古屋産業大学から出るごみは当然事業系ごみになりますが、私がきて3年目になりますが、ようやくISOの推進委員会がたちあがり、学生達に環境意識を植え付けているところです。</p> <p>例えば、ペットボトルのキャップ、本体、ラベルを分けて出すという意味すら分かっていない学生がたくさんいました。大学は全国から、それこそ海外からの留学生もおり、その多様な価値観を一つに統一するのは難しいのですが、私は大学生を見ていて逆に勉強になりました。「こんなものなんだな」と。学生へ、「自分の住んでる地域のごみは何分別」という質問を授業で行ったところ、正確に答えられる学生は少ないです。実はこっそりですが、旭中学校でも調査をさせていただきました。当時中学一年生でしたが、尾張旭市のごみが何分別か</p>



	<p>を正しく答えられた割合は12%でした。</p> <p>今回、尾張旭市の11の施策を見させていただいて、個人的に思ったのは、もう少し小・中学生へアプローチされても良いのかなと感じました。私は市川市において「子ども環境審議会議」をたちあげて20年になりますが、今でも関わっています。子どもの意識を変えると、子どもから突かれて親の意識が変わりますので、これは大きな力になると思います。ちなみに先程触れた市民会議で実際に行ったことですが、当時の市川市17万世帯へエコバックを全戸配布しました。それが良いかどうかは分かりませんが、市をあげて取り組みを行いますと、その成否はどうであれ意識は確実に変わりますので、そのあたりのことも施策に入れていただくと良いのかなと思います。</p>
白坂委員	<p>質問です。教え子さん達のアンケートのデータを少し教えていただきたいのですが、一般方よりもごみに対する意識はどうでしょうか。</p>
会長	<p>まずびっくりしたのは、中学校でエコ活動を行った子ども達が大人になり、「環境」と名前の付く職業に何らかの関係して就いている割合が53%いるということでした。一番環境について勉強しているのは千葉県庁に勤めている何人かです。他にも私の跡を継いで、子どもエコクラブを主催し、小・中学校で教諭している子達。企業の環境部門に入り、例えばアイドリングストップ運動等をずっと専門的にやっている子。自治会で主婦の方と一緒に活動していて、ごみの分別をやり直している子。ちなみに市川市は現在13分別ですが、環境市民会議の提言からその分別に変わりましたが、その提言をしたのも私の教え子です。市役所の環境部門にも2人勤務しています。それは、当時から環境意識が高かった子ども達です。</p> <p>今、大変ありがたいなと思っているのは、17人が千葉県で教員をしており、東京にも数人おられますが、そこで皆エコクラブを作りまして、その会員が1,000人超えています。教え子の教え子達は私から見れば孫のような存在ですが、そのように広がりがあります。子ども達は意識化すると早いです。そして子ども達の目は大人に対し厳しいです。自分の子どもや孫に言われ、ようやく大人達が動き出すというようなことをたくさん体験してきました。</p>
白坂委員	<p>もうひとつ質問ですが、市川市で全戸配布したエコバックは、市の予算で作成されたのですか。</p>
会長	<p>いえ、これは膨大な予算になりますので、幼稚園、小学校全38校、そして一部の中学校へ依頼を行いました。家庭科や総合的な学習の時間という科目時間に自作してもらいました。自分の小学校区に何世帯居るのかを調べ、その分だけを頑張って子ども達が手作りし、子ども</p>

	<p>達の手で2年程かけて全戸配布しました。 ご質問ありがとうございました。</p> <p>それでは、お時間も迫って参りました。事務局は本日のご意見を参考に基本計画の中間見直しの検討を行っていただきますと幸いです。</p> <p>さらにご意見・ご質問等はございますでしょうか。</p> <p>無いようでございますので、次第6「その他」、事務局からお願いいたします。</p>
環境課長	<p>長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。</p> <p>次回の開催は8月下旬を予定しています。</p> <p>本日の意見を参考として精査した基本計画の中間見直し案について、再度審議を行って頂く予定です。そして、これまでの審議内容をふまえ、本審議会の答申をまとめて頂きたいと考えています。</p> <p>日時等の詳細は、決まり次第、なるべく早く委員の皆さまにご案内させていただきます。</p> <p>お忙しいとは思いますが、ご出席くださいますようお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは、これをもちまして、令和元年度第1回尾張旭市廃棄物減量等推進審議会を終了いたします。</p> <p>皆さま、長時間にわたり大変お疲れ様でした。</p>